



「拓け未来の新潟第16回教育フォーラム」分科会報告

教育相談

校内研修会の実施



【協力校】

見附市立名木野小学校
刈羽村立刈羽中学校
県立栃尾高等学校



「不安そう(表情が乏しく)におどおどしている」
子どもがいた場合、どのように対処するか?

<個別支援>

対応	研修前	⇒	研修後
様子を見る	71.9%	↘	66.0%
声をかける	89.5%	↗	91.5%
話を聞く	78.9%	↗	87.2%

◎**静観せず、積極的に支援しようとする姿勢に変化**

<組織的な対応>

対応	研修前	⇒	研修後
学年で共有	57.9%	↗	80.9%
管理職に報告	17.5%	↗	31.9%

◎**複数で情報を共有し、組織的対応力が向上**

まとめ

- (1) 教職員の視点や捉え方が増えるだけでなく、声かけや面談、教職員間の情報共有等、具体的な行動につながった。
- (2) 教職員が、児童生徒の変化のサインを観察する具体的な場面や言動をイメージしやすくなった。
- (3) チェックリストにより、具体的な視点や観点が共有されているので、他の教職員に自分の気づきを伝えやすくなった。

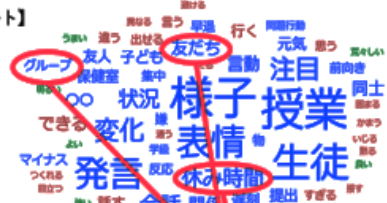
「子どもの変化に気付くチェックリスト」を活用し、子どもの変化のサインに早期に気付くための教職員研修を行い、事前事後でアンケートを実施しました。協力校3校の担当者で行ったパネルディスカッションでは、研修前後での教職員の気づきや対応の変化、効果的な情報共有の方法等について、意見交流しました。

各校での校内研修では、教職員の気づきを学年間で情報共有を行いました

教職員が注目する具体的な場面について、テキストマイニングを用いて“見える化”しました

学級が落ち着いており、子どもが学校生活を円滑に送っていると感じているとき、どのような言動に注目しますか。(いくつでも)

【事前アンケート】



【事後アンケート】



参加者の声

本校でもチェックリストを活用してみようと思った。

各校のチェックリストを活用した情報共有の方法が参考になった。

笑顔あふれる学級づくり ～よりよい学校生活をめざした話し合い活動の指導～

話し合い活動の事前指導について

児童生徒の思いや願い

- ・生活の中から議題を見つける
- ・本時の議題や課題をつかむ
- ・学級全員で話し合う必要性をもつ

話し合いの進め方の理解

- ・話し合いの進め方がわかる
- ・話し合う意義を確認する
- ・合意形成の手段や方法を身につける

話し合い活動へ

議題を見つける
チェックシート(例)

議題を見つける	児童生徒の意見や願い	生活の中からの課題	授業中の課題	学校の生活	その他
議題を見つける	○	○	○	○	○
児童生徒の意見や願い	○	○	○	○	○
生活の中からの課題	○	○	○	○	○
授業中の課題	○	○	○	○	○
学校の生活	○	○	○	○	○
その他	○	○	○	○	○



実践協力校：魚沼市立須原小学校
三条市立第二中学校
新潟県立巻高等学校

国語の「話す聞く」や道徳の「相手の立場に立って」などの事前授業を行いながら、合意形成に必要なルールや見方・考え方、判断基準などの事前指導に取り組みました。

話し合い活動の実践

解決方法の話し合い

- ①互いの意見を出し合い、理解する
- ②意見のよさと問題点を整理する
- ③視点を変えて比較する

解決方法の決定

- ・意見を合わせるなどして新しい考えをつくる
- ・条件や優先順位をつけるなどして意見をまとめる
- ・多数決（みんなが納得して行うことが前提）

決めたことの実践へ



合意形成までの3段階のプロセスに沿って

3校の実践協力校すべてで「合意形成を図る話し合い活動に向けた3段階のプロセス」を示し、授業実践を行いました。

話し合い活動の後

決めたことの実践

- ・自分の役割を果たす。
- ・一人一人のよさを生かす。
- ・協力して活動を行う。

振り返り

- ・友達のよさや頑張りを認め合う。
- ・自己の成長を実感する。
- ・次の実践への意欲をもつ。

次の課題解決へ

話し合って決めたことは、**協力して実践する**

満足感
所属感

多様な他者との
よりよい関係づくり

協働して
日常生活の向上を
図ろうとする態度



振り返りにおいて、児童生徒は、友達のよさや頑張りを認め合いました。また、自分を客観視し、自身の変化や成長を実感する経験をしました。この経験で得た満足感や所属感は、次の実践への意欲になります。

3段階のプロセス（①意見を出し合う ②意見のよさと問題点を整理する ③視点を変えて比較する）を踏まえた話し合い活動により、集団としての合意形成を図り、それを協働的に実践することは、学級経営の充実につながります。そのためには、児童生徒の願いをとらえ、話し合いの方法を事前に指導しておくことが大切です。

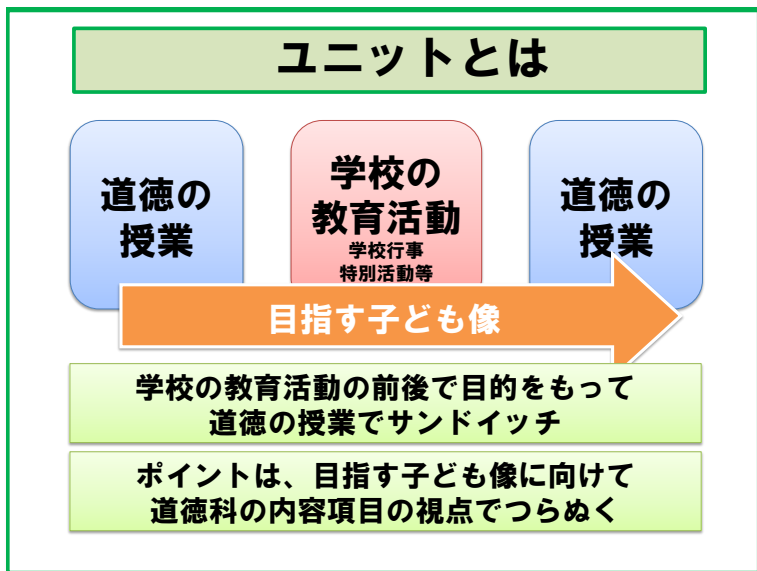
小学校・中学校・高等学校のどの校種においても、自分と異なる考えや少数意見も尊重し、一人一人が納得できる話し合い活動を目指すことで、友達とのよりよい関係づくりにつながり、学級の一員としての所属感を高めることが各実践から確認することができました。

道徳科を要とした繋がりのある道徳教育の推進

～学校教育活動との関連を図り道徳的行為の実践力を高めるユニット構想～

道徳科と特別活動などの行事を意図的、計画的につなぎ、振り返りまでの一連の流れ（ユニット）を構築しました。

南魚沼市立塩沢小学校、十日町市立中条中学校から実践の協力をいただきました。活動の目的や目標を明確にしたことで、児童生徒の道徳的行為の変容が確実に見られたことが成果です。また、新潟県立長岡大手高等学校からは、令和5年度の実施に向けて、ホームルームと既存の学校行事とを関連させた計画を提案していただきました。



フォーラム参加者から『道徳科と行事等の体験的活動を結び付けて行う活動は、児童生徒の道徳性を養う上で有効だ。』『実践が大変分かりやすく、個人でも実践可能な内容でした。』等の感想が寄せられました。

参加者の感想紹介



日常から教員間で「目指す子どもの姿」を共有していることはとても重要だと再認識しました。また、中学校の実践からは、教職員と生徒たちの真剣さが伝わってきました。



小学校の実践例がとても参考になりました。子どもの変容も見取りやすく、今後、自分もユニットをつくって実践してみたいと思いました。



高等学校での提案は、行事や総合的な探究の時間を利用して行うことだけでなく、SNSプログラム等との連携も検討するなど、各校で工夫できるものと感じました。



主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学びの実現を図る単元デザイン講座」と連携しながら、「単元デザインシート」を用いた単元づくり・授業改善をテーマに進めてきた取組の成果を発表しました。

5名の講座受講者から「単元デザインシート」を活用した実践を紹介してもらい、

・「単元デザインシート」は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために有用であるということ

・「対話」活動を工夫して「対話的な学び」を実現していくことが、「主体的」で「深い学び」につながっていくということ

が確認できました。

【実践紹介校】

- ・小千谷市立東小千谷小学校（国語）
- ・柏崎市立大洲小学校（生活）
- ・南魚沼市立八海中学校（英語）
- ・阿賀野市立水原中学校（社会）
- ・県立新発田南高等学校（数学）

作成例 第5学年 国語科 単元デザイン(全14時間扱い)

令和●年●月●日(●)
 授業者 ●●●●●
 教諭 ●●●●●
 小学校 ●●●●●

- 1 単元名 和の文化について調べよう
 教材名 「和の文化を受けつぐ——和菓子をさぐる」(東京書籍 5年)
- 2 単元の目標
 - (1) 情報と情報との関係付けの仕方を理解する。(知識・技能)
 - (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけ、論の考え方を考えることができる。【読むこと】(思考力・判断力・表現力)
 - (3) 目的や意図に応じて資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができる。【書くこと】(思考力・判断力・表現力)
 - (4) 積極的に必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし、書き表し方を工夫して調べたことを報告するパンフレットを作ろうとする。(学びに向かう力、人間性等)
- 3 目指す子ども像(資質・能力)
 - ・自分に必要な情報を取捨選択し、活用できる子
 - ・資料を活用し、自分の考えが伝わるように文章を書くことができる子

4 単元の指導計画と学びの実践ポイント(本時 12/14)

次(時数)	学習活動	主体的	対話的	深い学び
1(1)つかむ	「和の文化を受けつぐ」を読み、「和の文化」について調べ、報告するパンフレットを作るという単元の目的を確認する。	主体的な学びを促す	対話的な学びを促す	実際のパンフレットを提示
2(2)取り(3)り(4)組(5)む(6)	「和の文化を受けつぐ」を読んで筆者の説明の仕方を読み取る。	興味や関心を高める	対話的な学びを促す	知ワークシート
(7)(8)(9)	「和の文化」について説明する観点に沿って調べ、情報を集める。	見逃しを持つ	対話的な学びを促す	多様な情報を収集する
(10)(11)(12)(13)	情報を整理して簡明な文章を書く。パンフレットを作る。デジタルデータの変更に容易にする。	繰り返し修正、レイアウトの変更を容易にする。	対話的な学びを促す	繰り返し修正、レイアウトの変更を容易にする。
3(14)振り返り	単元の学習を振り返り、資料を使った説明の仕方を確かめる。	振り返りシート	対話的な学びを促す	自分の考えを形成する

単元デザインシートの例はこちら



「単元デザインシート」は、当センターWEBページに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

単元デザインシートの有用性

単元をデザインする面から

従来の学習指導案と比べて、単元を構想しやすく、流れもイメージしやすい。また、ピクトグラムが色分けされているため、「主体的、対話的で深い学び」の3つのバランスを常に意識しながら1時間1時間を組み立てられる。

授業の傾向を把握する面から

「視覚的」に理解できる、「可視化」しやすいことから、自分自身の授業の傾向を把握し、改善につなげていける。

児童生徒の資質・能力の育成面から

ピクトグラムを位置づけながら単元構想を行うことで、子どもたちに身に付けたい力や、目指す子供の姿を意識しやすい。